



人類に
奉仕する
ロータリー

パワー浜松ロータリークラブ週報

クラブテーマ: 全員参加で、奉仕の理想を実現しよう!

パワー浜松ロータリークラブ (2016-17年度 会長: 近藤 雅彦 幹事: 田淵 邦彦)
〒430-7733 浜松市中区板屋町 111-2 オークラクトシティホテル浜松 4307 号室
Tel: 053-452-0800 Email: info@power-hamamatsurc.jp
http://www.power-hamamatsurc.jp

創立: 2002年10月22日 認証伝達式: 2003年4月29日 スポンサークラブ: 浜松中RC

第658回例会 1月 24日 AM7:30~8:30

オークラクトシティホテル浜松3Fチェルシーの間

- 司会: 加藤ひとみ 原田道子 八田峰夫
- 点鐘: 近藤 雅彦
- ゲスト: 静岡第7分区ガバナー補佐 小杉昌弘様
同事務局次長 小野貴寿様(共に浜北RC)
袴田秀子様
- 議事: クラブ広報委員会「袴田巖さん、秀子さんのその後」

〈出席報告〉

会員数 80名(内 出席免除会員1名)
出席数 62名 出席率 78.48%

前々回出席率 82.28%

■会長挨拶

本日の例会の卓話は2回目となりますが、袴田巖さんのお姉さんである袴田秀子さんに、その後の巖さんや秀子さんの状況、新たに出された新事実や再審の行方についてお話しして頂けるということです。先日も中日新聞で二俣事件という冤罪事件について、弁護士の方が評伝を執筆するとの記事がありました。この弁護士さんは私の妻の方の親戚の方ということで、意外に身近にこのようなことがあるのだなと感じた次第です。袴田さんの事件にしろ、二俣事件にしろ、科学的な知見も少ないかなり昔のことで、今ではそのような冤罪事件はないと思いたいところですが、具体的に何の事件かはあえて申しませんが、そのように疑われる事件があるようにも思えます。私たちが安心、安全に暮らしていくためには国家権力や警察力は必要なことだと思いますが、その方向が一步間違えると一般市民に向くこともあるのだということを私たち自身ももっと自覚をする必要があるのかもしれない。いずれにしろ、本日のお話を伺って私たちとしてどのような支援ができるか皆さんで、お考えをいただくことをお願いして会長挨拶とさせていただきます。

■幹事報告

- ・本日の配布資料は、袴田巖さん50年目の無実の証拠レポートと再審無罪を求める要請はがきです。不足ございましたら、幹事の私の方に申して下さい
- ・受付にて、ご希望の方に配布しております(公益財団法人)掛川市生涯学習振興公社主催いつでも元気が出るコンサートのご案内がきております。
- ・本日は、ガバナー補佐、第3回クラブ訪問でございます。

■静岡第7分区 小杉昌弘ガバナー補佐

ガバナー補佐の立場をいただきまして、色々なクラブに訪問し、初めての経験がたくさんできてありがたく思っています。

さて、2月20日のIMのパワーさんの出席率ですが、式典55/80名、懇親会52/80名となっております。全員登録なので、ちょっともったいない気がします。浜松西RCさんは50/51名です。月曜日で申し訳ありませんが、浜北RCが精一杯立派な大懇親会を企画していますので、たくさんのお席をお願いします。

当日は、女性が輝くロータリーというテーマでSBSの鈴木通代アナウンサーをコーディネーターにお招きして、女性活躍社会とRC女性会員倍増についてパネルディスカッションを行います。このIMを通じて女性が活躍できる社会をロータリーから作っていくんだという認識を感じていただければと思います。

開催日の前後1週間、このホテルの1Fロビーに、伊勢志摩サミットに出展した松の盆栽を展示する予定ですので、鑑賞して浜北の宣伝をお願いします。本日はありがとうございました。

■委員会報告

■安間利広 部会長/会員増強部会

来週、再来週は過去の栄光を語る例会です。写真を募集していますので、未提出の方は今週中にご協力ください。

■スマイル

近藤会長、田淵幹事: 袴田様越し頂きありがとうございました。

安間孝明さん: 人生の大半、無罪を訴え続けたお二人を応援下さい。是非ハガキを投函して頂きますようお願いいたします。

熊谷真一さん: 約半年後に出発、そしてドイツからの交換学生を受け入れることとなります。

土屋公良さん: 温泉同好会で訪れた長崎の史跡料亭「花月」より手紙が届きました。又、行きたいなあ。

■議事：袴田巖さん、秀子さんのその後 ～証拠開示により明らかにされた新事実～

袴田です。この会に2度もお招きいただきまして、ありがとうございます。兄の巖は2014年の3月27日に再審開始が認められて、釈放されたもののいまだ死刑囚でございます。釈放されている死刑囚は世界中でただ一人だと思います。しかしながら、再審開始決定となって、支援者の方々をはじめとするみなさまに報いることができたとうれしく思っています。

釈放される3年程前から拘禁症で自分が分からなくなって、私が面会に行っても断られました。それでも私が兄を見捨てていないというメッセージが伝わればいいと思って、拘置所に月に1、2回通い続けました。再審開始決定を本人に伝えた時も納得はしてくれませんでした。諦めて帰ろうとすると拘置所の事務室に通されて、当日に釈放されることを知りました。そんなこととは露知らなかったの、その時は本当に驚きました。

今では、兄は毎日浜松の街中を1日4～5時間徘徊しております。朝、「行ってくる」と言って出かけます。その時には「はい、行ってらっしゃい。元気でね」と大きな声で送り出しています。本人に言わせれば、浜松の町を守っているらしいです。最初のころはみなさんから声を掛けられても、返事もしなかったようですが、この頃は挨拶をするようです。拘禁症も徐々に良くなっているようです。通院を勧められる方もおりますが、私は自宅で吞気にさせておくのがいいと思っております。

今は大変元気で歩行も普通にできるようになっておりますが、2回程、道に迷って警察に保護されたことがあります。街中で見かけたときは是非みなさん、声を掛けてやってください。少々耳が遠いので大きな声を掛けていただければと思います。

現在、東京高裁と東京高検、弁護団による3者協議が進められています。私にとっては、兄が目の前にいることで十分ですが、けじめはつけないといけなと思っています。

再審が始まってからも、一所懸命やっていきたいと思っております。今後ともよろしく願い申し上げます。



袴田秀子様

例会担当：安間孝明 副委員長/クラブ広報委員会
袴田巖さんのお姉さんの秀子さんほど女性として信念をもって生き抜いている方を他に知りません。本日はありがとうございました。

浜松袴田巖を救う市民の会の一人として、50年目の無実の証拠について少しお話をさせていただきます。この事実と司法の実体をみなさんに知っていただきたいと思っております。

静岡地裁は、多数の証拠の捏造があったとして、このまま拘留しておくことは甚だしく正義に反すると確定して、袴田巖さんを再審開始決定、即時釈放としました。

これまで、検察側は自分たちに有利な証拠しか開示してきませんでした。しかし、世論に押されて開示され始めました。その中には信じられない事実があります。確定判決で、袴田さんが犯人である根拠の一つとされてきた「被害者(専務)に蹴られた」と自白した時にあった傷が、逮捕時の身体検査の時にはなかったのです。逮捕時だとされた傷は逮捕後にできた傷だったのです。しかも、その傷が確たる証拠とされたのです。日本の司法に正義があるのかと言いたいです。

みなさん是非、東京高等裁判所への嘆願のハガキの投函にご協力ください。